

泣ける国語力の低下

漢字配当表の問題に続いて、熟語などの言葉の遣い方全般の問題。「言葉なんて通じればいい」が支持を得ている。そのほうが言葉を勉強しなくていい、覚えなくていい、楽だからである。「国語は国家である」という名言も霞む。各界の指導者、学校教師は国語力を伸ばしていくべし。

言葉に鈍感な人は表現力不足

今年八月十五日の敗戦の日に発表された「戦後七〇年安倍首相談話」は四〇〇字詰原稿用紙十枚の長文であった。

長文であるだけに総花的で、敵からは焦点が絞りにくく、いいが、これは日本国民に向けて発せられたものである。私も含めまわりは感動することなく、何だかよく解らなくて狐につままれたような顔をしていった。

とはいえ、五〇年の村山、六十年の小泉の談話と比べると、この談話は敵に攻撃されないよう用心深く練り上げ熟考された跡が見られる。朝日新聞は根拠を示さず「この談話を出す必要がなかった」と評したが、これは悔しまぎれの捨てぜりふであり、どうしてどうして、「歴史に残る」立派な談話であって、村山と小泉の談話の毒を薄めることができたという点で大きい価値がある。

一つ気になる欠点がある。ライターの端くれの私から見ると、談話はまん中の原稿五枚目あたりの「この不動の方針を、これからも貫いてまいります」で終わればよかった。

後の半分は蛇足であり、言い訳であり、関係諸国に対する卑屈なおもねりであり、カットしたほうがよかつた。

内容もさることながら、後半四五百字の原稿は「胸に刻み」のオンパレードである。

わずかに一五〇〇字の文章に「胸に刻み」が六回、それを同じ意味の「心に留め」「思いを致さなければ」と合わせる八回も使われている。

「胸に刻む」は忘れずにつかり覚えておく意味である。「深く反省して決して忘れません」と八回も述べているのである。主語は「私たちは」で日本国民である。

経営管理講座 322 染谷和巳

「胸に刻み続ける」という、迫りできていない。よって一つ一つの言葉が大事なのである。適切に効果的に言葉が使われれば内容が光ってくる。言葉が外れていたり軽かったりすれば、言わんとすることは解るが胸に響かない。

今「胸に響く」という表現を使ったが、このように人の体の一部を使った成句は「まん」とある。胸を張る、胸が痛む、胸騒ぎ、手の平を返す、手に汗を握る、腕が立つ、足が地に着かない、背に腹はかえられない、目にも物を見せる、爪に火をともしす。

日本語は世界で最も語彙が豊かな言語である。文章をその豊かな言葉を縦横に駆使して内容を深め高める。これができる人を「表現力がある」という。

「胸に刻み続ける」という、迫りできていない。よって一つ一つの言葉が大事なのである。適切に効果的に言葉が使われれば内容が光ってくる。言葉が外れていたり軽かったりすれば、言わんとすることは解るが胸に響かない。

今「胸に響く」という表現を使ったが、このように人の体の一部を使った成句は「まん」とある。胸を張る、胸が痛む、胸騒ぎ、手の平を返す、手に汗を握る、腕が立つ、足が地に着かない、背に腹はかえられない、目にも物を見せる、爪に火をともしす。

日本語は世界で最も語彙が豊かな言語である。文章をその豊かな言葉を縦横に駆使して内容を深め高める。これができる人を「表現力がある」という。

「胸に刻み続ける」という、迫りできていない。よって一つ一つの言葉が大事なのである。適切に効果的に言葉が使われれば内容が光ってくる。言葉が外れていたり軽かったりすれば、言わんとすることは解るが胸に響かない。

今「胸に響く」という表現を使ったが、このように人の体の一部を使った成句は「まん」とある。胸を張る、胸が痛む、胸騒ぎ、手の平を返す、手に汗を握る、腕が立つ、足が地に着かない、背に腹はかえられない、目にも物を見せる、爪に火をともしす。

日本語は世界で最も語彙が豊かな言語である。文章をその豊かな言葉を縦横に駆使して内容を深め高める。これができる人を「表現力がある」という。

言葉の番人なんているのか。四十年前私は「燃えるセールス」という営業マン向けの教材を作った。本屋で売れるものではなく、会社に直接販売するもの。手紙が来た。差出人は「〇〇の人権を守る会」。

「テキストの何ページの何行目に、土人に靴を売る」とありその後にも二度土人という言葉が出てくる。明らかな差別語であり著者の見識を疑う。すぐ訂正し、訂正したものを提示せよ。もしそうしないなら提訴する。

私は驚いた。提訴するという脅しではない。市販されていない営業マン向けのテキストをチェックして差別語が遣われていないか探している。人間が存在しているということである。

その時から言葉に神経を使う「言葉の番人」が日本中のアチコチに潜んでいることを知った。シャーロック・ホームズが虫眼鏡で証拠を探すように、差別語を探している人がいる。また差別語使用の情報を集めて、それをネタに正義の活動をしている人がいる。

政治家や学者、保護者や一般社人もこれくらい言葉に敏感になり、言葉に神経を使えばいいのと思った。

毎度「ありがとうございます」の堀川社長も同じく「本日はまことにありがとうございます」と言った。九割以上の人が「ました」と言う中でこの二人の「ございました」は嬉しくて泣けた。

社長は表現力を磨き、言葉に敏感になり、社員に模範を示し、社員の文章と言葉遣いを指導する。社長はこの努力を続けるべし。

「言葉に鈍感な言葉の番人」たち

有名な言語学者が「言葉の乱れ」など問題にすることはない。正しい言葉遣いなんてないんです。今遣われている言葉が正しいんです、ガハハハ」と豪快に笑い飛ばしていた。

こんなに優れた言語を持ちながら、こんなにその価値を認めない時代はかつてない。経済も科学も政治も言葉で成り立っていることを知らないと、認めない当事者ばかり

社長の国語力が優劣を決める

「本日はまことにありがとうございます」と言った。また堀川産業

「本日はまことにありがとうございます」と言った。また堀川産業

「本日はまことにありがとうございます」と言った。また堀川産業

アイワイ事務所移転
〒112-0003
東京都文京区春日1-11-14
電話 〇三三〇〇 四五一
FAX 〇三三〇〇 四五三